

平成 28 年度 第 3 回福岡県助産師会スキルアップ研修会実施報告 (7/31)

① 分娩期の胎児心拍モニタリングを学ぶ

② 妊産婦フィジカルアセスメント～必要な基本知識とアセスメント・異常の早期発見への活用

講師：真田産婦人科麻酔科クリニック 医師 下川 浩 先生

今回はラダーⅢ認定申請必須研修会ということもあり、猛暑の中、約 90 名の参加者にお越しいただき大盛況の研修会となりました。前半の『①分娩期の胎児心拍モニタリングを学ぶ』では、胎児心拍図の基本的な読み方や所見の読み取り方の復習から始まり、胎児心拍陣痛図の波形レベルによる対応と処置の診断方法や、それを考える上での重要な点などの説明がありました。胎児心拍陣痛図は偽陽性が高い検査で、診断確率が少ない検査でありながら、医師がこれを使用する理由として、その子の一生に係わる指標であり、判断を後悔しないようにするためだというお話もありました。また、対応については異常所見が出ても経験的に軽く判断しがちになるため、気を付ける必要があることや、背景因子と施設的能力を考慮して行い、異常に随伴する症状の有無



を模索することが大切であるということも学びました。以上を踏まえての事例検討は、先生の経験談も交えて参加者主体で行われ、緊張感もありながらユーモアあふれるお話が聞け、参加者の満足度も高いものになりました。

後半の『②妊産婦フィジカルアセスメント～必要な基本知識とアセスメント・異常の早期発見への活用』では、初めに年々産科医不足で助産師の役割は高まっており、「助産師」として外来業務にあたること(ミニ医者にならない)や、妊産婦さんの意見をよく聞いて的確なアドバイスをすることの重要性についてお話がありました。記録の大切さや診察の進め方では、私たち医療者は万能ではないため、妊産婦さんの状態を正確に確認する方法はなく「無力」なことを知って欲しいというお話から、

診察の中で一番の武器は問診であり、超音波検査などでの視覚的な情報は不確実な場合も往々にしてあるため、「聞く」ことが重要で、妊産婦さんが今どの時期か、どのようなことが考えられるかをイメージして聞くことが求められることがわかりました。また、「妊産婦さんのお腹に触れて」情報を確認・アセスメントすることが大切だが、今は「触れる」ことが当たり前ではなく残念な状況だというお話から、私たち助産師があたたかい手で妊産婦さんへ「触れる」ことの大切さを改めて考えるきっかけにもなったのではないかと思います。また先生のお話の中で、「異常を発見するためには正常の理解が大切」「子どもの病気に一番気づくのは母親」とのお話も印象に残りました。事例検討は時間の関係上短縮されましたが、前半同様、参加者も発言する機会があり、有意義な時間になりました。

今回の研修会で、胎児心拍モニタリングと妊産婦さんへの関わり方を今一度見直す機会が出来ました。下川先生、お忙しい中研修会を開催して頂きましてありがとうございました。

古賀 万里奈